

【参加者】鈴木委員長、佐藤副委員長、濱田委員、結城委員、橋爪委員
 岡岡企画課副課長、浅利産業課副課長、岡田議会事務局書記

去る、11月9日(月)から11日(水)の日程で、県外行政視察を行いました。視察先は過疎高齢化が進行する中で、過疎がもたらす様々な課題に取り組んでいる鳥取県日南町、琴浦町を訪れた。

日南町の概要

中国山地のほぼ中央、広島県、岡山県、島根県の3県に隣接し、面積341km²、人口5,110人、面積89.3%が森林であり、農林業が主な産業という典型的な中山間地域である。高齢化率が46.5%。

【研修内容】

- 廃屋・空き家対策について**
 移住・定住や町内の若者がいつまでも暮らしていけるよ
 うにという観点から、条例を制定し、奨励金や祝い金、
 移住・定住のための補助金等定めている。
- 産官学連携について**
 鳥取大学と連携して地域の活性化の実現と県民の暮らしを豊かにすることを目的とした事業を展開している。大学と連携事業を行うことのメリットとして、「大学が持つ知的財産権の活用」「連携による交流事業の増加」「新たな行政展開」が期待できる。
- その他**
 冒頭の挨拶の際の、「自治体病院である日南病院の31年間黒字経営をつづけてきた」とのことについて説明を受ける。



琴浦町の概要

鳥取県の中央に位置する日本海に面した町。鳥取県東伯部の東伯町と赤碕町が2004年9月1日に合併して誕生した。なお町名は、かつて海岸一帯が「琴ノ浦」と呼ばれていたことに由来する。人口18,255人、高齢化率33.7%。

【研修内容】

- 漁業後継者対策及び新規就業者の育成**
 漁業担い手研修として、地元漁協、県に相談・協議している。独立、創業を目指し、漁業者によるマンツーマン指導による研修を実施する経費の支援。
- 農業担い手対策事業**
 農業委員会として、農業担い手結婚対策事業の実施。
- その他**
 - ①鳥取大学連携事業
 - ②地域課題・社会課題解決に向けて、町と民間団体の取り組み
 - ③琴浦協働事業・物産館ことららの取り組みについて説明を受ける。



研修に最後までお付き合いいただいた琴浦町長(右から4人目)

視察の総括として

過疎化の問題は、どこの自治体も抱える問題である。創造力と責任感を持って過疎問題に取り組むべきである。議会事務局とともに、十分な下調べを行い、訪問したが、目で見て、肌で感じることの大事さを実感した。

研修先は、両町共に歓迎を受けた。とくに日南町の研修では、全国の1700余りの自治体に行政視察受け入れのパンフレットが送付されているだけあっておもてなしが行き届いていた。

因みに平成26年度の視察団体数は49団体528人。地域にもたらす経済波及効果もあるとのこと。そして、説明対応を通じて、職員自身も理解が深まり、スキルアップに繋がっているなどの相乗効果が生まれているとのことであった。

また、説明員の「日南町は、創造的過疎をテーマにまちづくりに取り組んでいる。成果も大事だが今、取り組んでいることを重視している。」との言葉が印象的であり、研修は非常に充実した有意義なものであった。

【参加者】仲江委員長、長脊副委員長、沼谷委員、梅野委員、寺町議長、平井教育次長、河合福祉課主任、吉村議会事務局長(川勝委員・漆畑委員・水口委員は欠席)

滋賀県多賀町

彦根の隣町が多賀町は人口7,000人余りなのですが、博物館と図書館と歴史民俗資料館があり、建物だけではなく日常の企画展等の行事もしっかりこなしています。教育委員会には課が3課あり、保育所を含めた子育て支援の活動も教育委員会が行っています。串本町に足りない物を学ぶことができるのではと、視察先に選びました。



約束の10時には町長と副議長・総務委員長等が玄関先で出迎えてくれました。議会事務局長は女性で、教育次長他担当職員が同席して、午前中は視察団と同じくらいの人数で子育て支援を中心に対応してくれました。午後からは博物館に場所を移して、博物館長と図書館長が説明と案内をしてくれました。

子育て支援を教育委員会に一本化したのは現町長の考えで、保育所の統合では議会に否決された事もありますが、子育て施策は住民におおむね好評で、子育てがしやすいからと移住する若い住民も増えています。

博物館は有資格者の嘱託館長と学芸員が2名と臨時職員1名の4名体制。図書館は有資格者の嘱託館長と司書が3名と一般職員1名。司書資格を持つ臨時職員2名でこちらは7名の体制。この人口規模でこれだけの配置を行えるのは、町民の理解を得られているからであり、それはまた文化水準の反映でもあります。

三重県鳥羽市

串本町は古式捕鯨も近代捕鯨もかつては町の基幹産業でしたが、捕鯨に関する道具や史料がほとんど残されていません。わが町発祥の「ケンケン」の名はすさみにとられてしまいました。江戸時代の番付上位に位置された鯨節製造も町内に一軒を残すのみとなっています。マグロ漁も大間にお株を奪われてしまったし、女性の海女は昭和初期には700人余りいたのに現在では5人ほどを残すのみとなっています。



三重県鳥羽市には公費補助を受けずに作られた公益財団法人「海の博物館」があります。串本の忘れられつつある漁民の漁具や歴史を保存し後世に伝えていくうえで、まさにお手本となる施設です。

視察は鳥羽市職員による鳥羽の漁業の現状報告と海の博物館の石原館長からの海女文化の保存伝承を中心とした報告を受け、その後石原館長に普段は非公開となっている国指定重要有形民俗文化財を保存している倉庫を含め、館内を案内してもらいました。

博物館の実物資料の所蔵点数は約60,000点(件)。民俗資料が大半を占めており、うち6,879点の国指定重要有形民俗文化財を含んでいます。重文と言えば宝物をイメージしますが、身近な道具類が歴史的価値を評価されて指定されているものも多く、わが町で始まっている歴史民俗史料の収集品の中にも重文指定に値する物もある事に気づかされ、一層の収集保存活動が重要だと思いました。